

2. 基礎的分析

2-1. 記述統計

■ まず検定を行う前に記述統計（平均，分散，範囲など）を計算。

■ 方法

「記述統計」－「記述統計」を選択。ボックスに変数を選択。オプションで、産出したい記述統計量にチェックを入れる。



■ 結果の見方

記述統計量

	度数	範囲	最小値	最大値	平均値	標準偏差
妬み感情	45	8.00	.00	8.00	2.8889	1.87353
se	45	3.70	2.10	5.80	4.1444	.94040
有効なケースの数 (リストごと)	45					

- ・ 各欄に、それぞれの記述統計量の値が記されている。最小値，最大値は異常値のチェックにも役立つ。
- ・ さらに詳しい情報や、探索的な分析を行いたい場合、「記述統計」－「探索的」を選択。箱ひげ図，幹葉図などを表示し、外れ値等を見ることができる。
- ・ パーセントایل，ヒストグラムなどは「記述統計」－「度数分布表」を使うと簡単に算出・作成できる。
- ・ 変数を標準化したい場合、「標準化された値を変数として保存」にチェックを入れる。

2-2. 相関係数：2変数の関係の基礎的情報

■ ピアソンの積率相関係数：2変数の「直線的な」関係を示すもの

■ 偏相関係数(partial correlation)：交絡変数の影響を除いた場合の2変数の相関

■ 方法

- ・ 普通の相関係数：「相関」－「2変量」を選択。ボックスに相関を見たい変数を入れる。



- ・ 偏相関係数：「相関」－「偏相関」を選択。「変数」欄に関係を見たい変数を、「制御変数」欄に影響を除きたい変数を入れる。



■ 結果の見方

- ・ 値の大きさと、有意か否かを見る(デフォルトでは、有意な相関の横には*印が表示される)。
- ・ 相関の大きさの判断
 $0 < |r| \leq .2$: ほとんど相関なし, $.2 < |r| \leq .4$: 弱い相関あり, .
 $4 < |r| \leq .7$: 比較的強い相関あり, $.7 < |r| \leq 1.0$: 強い相関あり.

相関の場合

相関係数

		妬み感情	se
妬み感情	Pearson の相関係数	1	-.093
	有意確率 (両側)		.545
	N	45	45
se	Pearson の相関係数	-.093	1
	有意確率 (両側)	.545	
	N	45	45

相関係数

偏相関の場合

制御変数			se	妬み感情
優越属性	se	相関	1.000	-.027
		有意確率 (両側)	.	.861
		df	0	42
妬み感情	se	相関	-.027	1.000
		有意確率 (両側)	.861	.
		df	42	0

注：

- ・ Pearson の積率相関係数は、直線的な関係を記述するだけ。曲線的な関係がある場合や抑制的な第3変数の影響も考えるので、無相関＝無関係とするのは短絡的。
- ・ サンプルサイズが大きいときに小さな値の相関が有意でも、実質科学的意味があるとは限らない。
- ・ 外れ値の影響を受けやすいので、散布図の確認を忘れずに。